



平成29年 熱中症による救急搬送と気象状況

平成29年4月27日～9月30日

1 救急状況

平成29年（4月27日から9月30日）の小野市における熱中症による救急搬送人員は42人で、昨年同期（46人）の搬送人員よりも4人少なくなりました。

救急搬送された方を年齢別でみると、成人（18歳以上65歳未満）が20名（47.6%）と最も多く、次いで高齢者（65以上）が14名（33.3%）、少年（7歳以上18歳未満）が7名（16.7%）、幼児（1歳以上7歳未満）が1名（2.4%）の順となっています。

また、救急搬送された方を程度別でみると、重症（入院が3週間以上のもの）が0名、中等症（入院が必要で入院加療が3週間未満のもの）が3名、軽症（入院を必要としないもの）が39名という結果となりました。

2 気象状況

この期間中の真夏日は60日間（昨年は61日間）で、7月31日と8月4日に34.5度を記録しました。

今年は猛暑日がなく、昨年と比較すると気温が若干低い状態となりました。

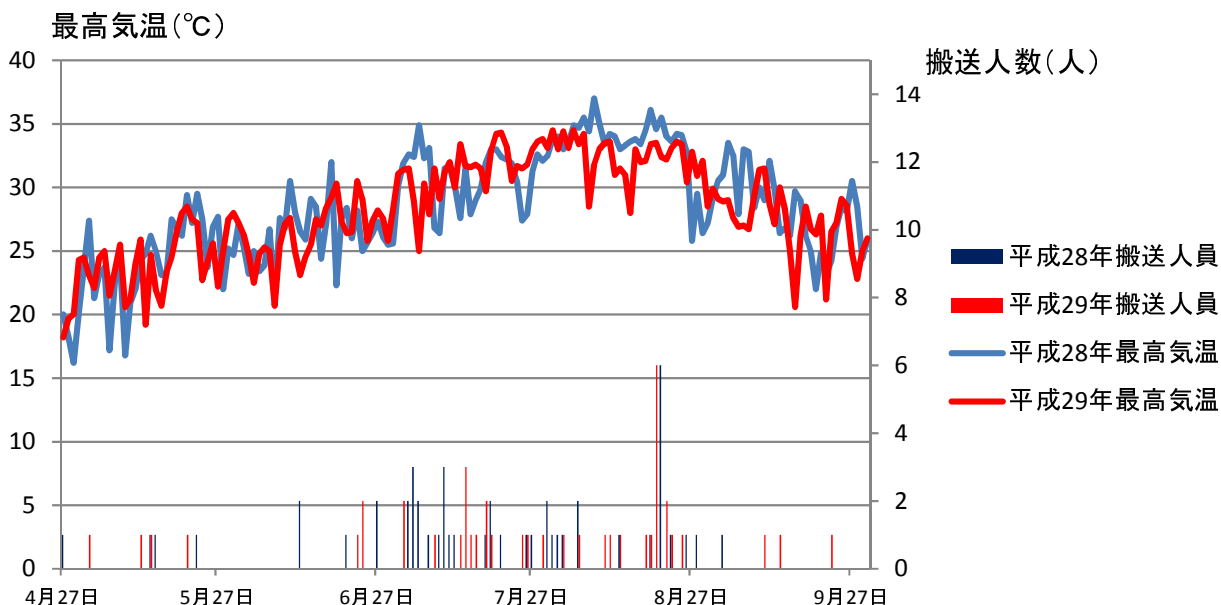
なお、小野市の最高気温は平成25年8月13日に38.3℃を記録しています。

※ 調査期間は、総務省消防庁の指定した期間です。

※ 気象観測データは、小野市消防本部気象観測装置によるものです。

3 最高気温の比較と熱中症による救急搬送人員

下記のグラフは、今年と昨年の4月27日から9月30日までの最高気温と熱中症による救急搬送人員を比較したものです。



【今年の特徴】

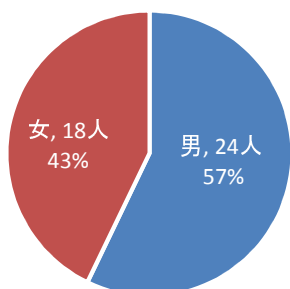
気温について比較すると、昨年に比べ今年は全体的に気温が低くなりましたが、7月19日から27日連続真夏日を記録しました。なお今年は猛暑日はありませんでした。

4 熱中症による救急患者の内訳

(1) 性別と年齢

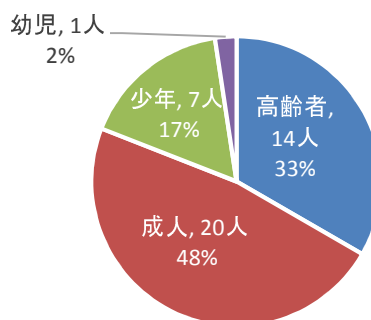
熱中症で搬送された42名を男女別でみると、男性が24名で女性が18名となりました。また、救急搬送された方を年齢別でみると、成人の方の割合が全体の半数を占めております。

男女別(人)



■ 男 ■ 女

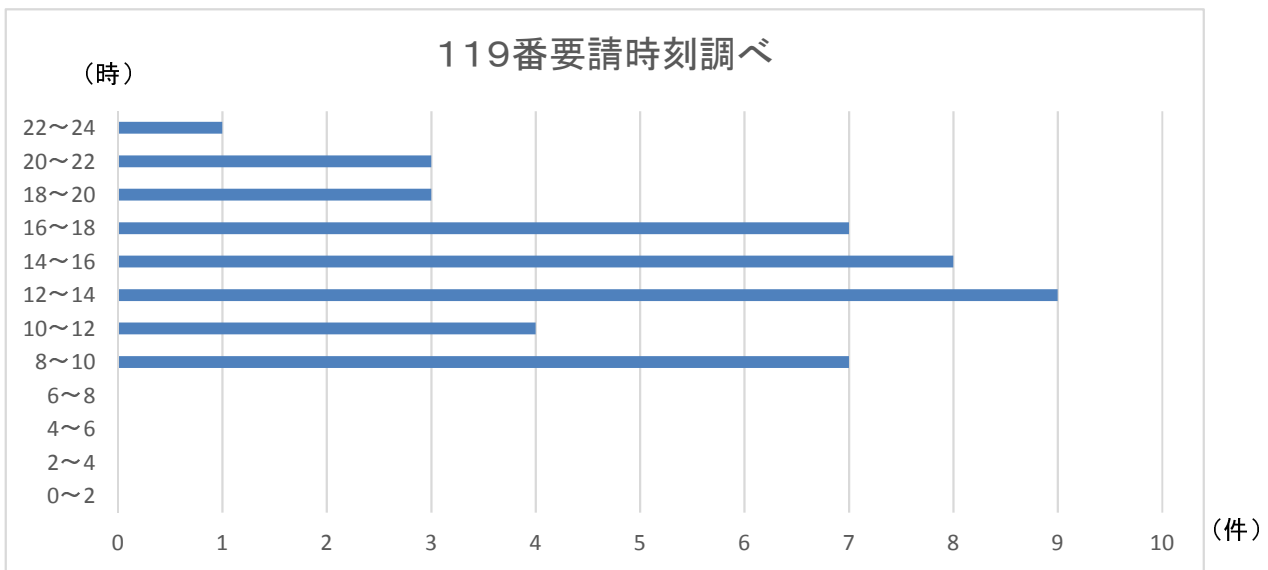
年齢別区分



■ 高齢者 ■ 成人 ■ 少年 ■ 幼児

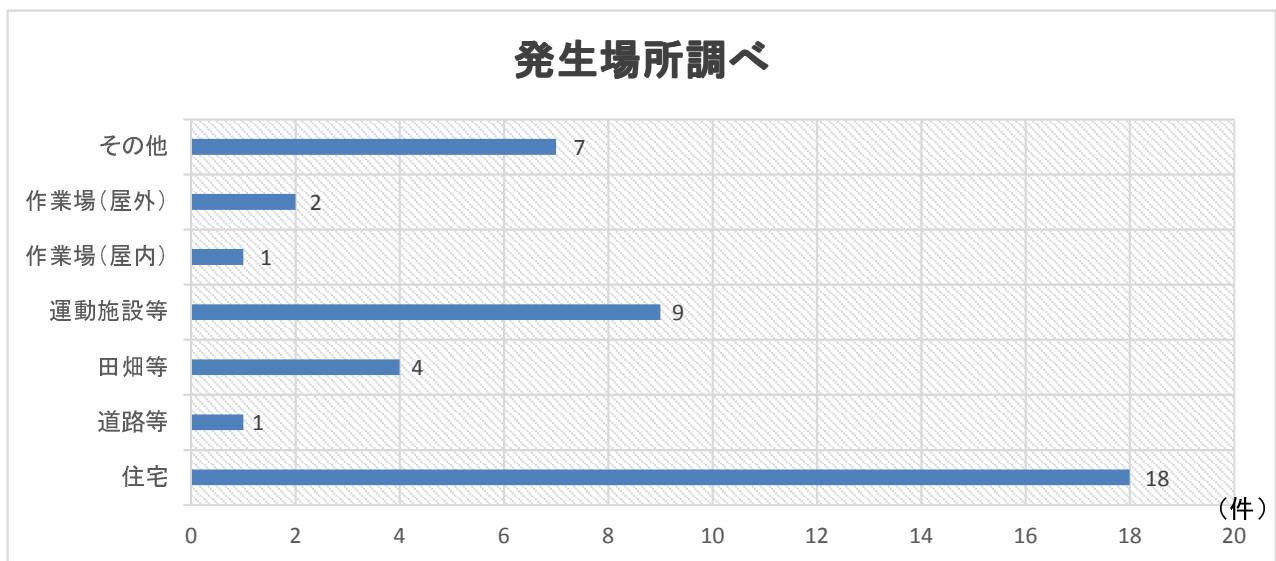
(2) 救急要請時刻

熱中症により119番通報された時刻をみると、救急要請が一番多いのは12時から14時です。なお、夜中でも熱中症による救急要請がありました。



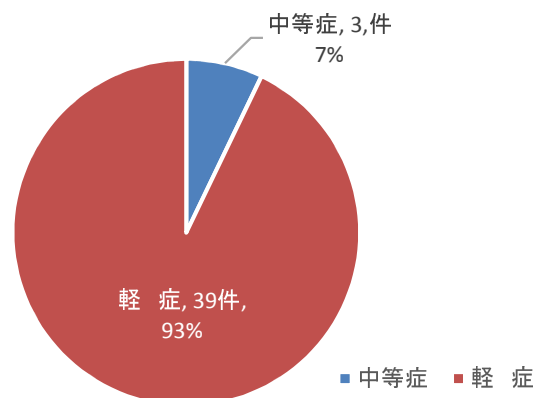
(3) 発生場所

発生場所が一番多いのは、「住宅内」で18件となっています。



(4) 救急搬送者の傷病程度

救急車で病院へ搬送された42名のうち39名(93%)の方が初診時軽症と診断され、3名(7%)の方が中等症と診断されました。



(5) 熱中症に伴う入院率

熱中症による入院率については、高齢になるほど入院率が高くなります。

年齢 (歳)	搬送人員 (人) (A)	初診時傷病程度(人)				入院率 (B)/(A)
		死亡	重症	中等症	軽症	
		(B)				
0~4						
5~9	1				1	0.0%
10~14	3			1	2	33.3%
15~19	7				7	0.0%
20~24	2				2	0.0%
25~29						
30~34	1				1	0.0%
35~39	2				2	0.0%
40~44	2				2	0.0%
45~49	5			1	4	20.0%
50~54	4				4	0.0%
55~59						
60~64	1				1	0.0%
65~69	3				3	0.0%
70~74	3				3	0.0%
75~79	3				3	0.0%
80~84	2			1	1	50.0%
85~89	2				2	0.0%
90~95	1				1	0.0%
95以上						
合計	42	0	0	3	39	

5 熱中症予防への取り組み

今年、熱中症による救急搬送は42人でしたが、これ以外に救急隊が現場に到着すると明らかにお亡くなりになられていた方が2名ありました。

残念ながらお亡くなりになられてから数時間が経過されていて病院に搬送できませんでしたが、後日の調査で熱中症によりお亡くなりになった可能性が高いとされています。

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとることが大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくいいため、喉の渇きを感じにくく、小さな子どもは汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴がありますので、各種関係機関と連携を図りながら各年齢層に応じた講習会を開催し、熱中症の発生を予防いたします。